

自由論題 3「南アジアの政治」・報告 1

報告テーマ

地域概念としての「北層 (“Northern Tier”）」諸国の成立：地域機構 RCD、及び ECO の結成と、その動向を事例として

“Constructing of Regional Identity of “Northern Tier”： The formation and activities of two regional organizations, RCD and ECO”

氏名(所属)

田中 聡一郎 (一橋大学・院)

要旨(800 字程度)

本研究では、トルコ、イラン、パキスタンで構成される、「北層 (“Northern Tier”）」諸国の地域概念に構築に関し、冷戦からポスト冷戦時代の国際情勢の中での意味付けの変遷、及び地域機構としての具体化の過程について考察を試みる。事例として、1964 年に結成された地域協力機構(RCD)と、1985 年にそれを継承した経済協力機構 (ECO)の活動に注目し、国際政治史の観点から検証を進めていく。

従来の研究では、「北層」諸国は冷戦期の中東における、西側同盟の一翼を担う国家群として論じられてきた(Cohen 2005;小野沢 2016)。この為、前述の 3 カ国を含む地域的な動向に関する研究対象は、主にバグダード条約機構や中央条約機構(CENTO)であり、RCD や ECO の検証は進んでいないのが現状である。しかし「北層」諸国とは本来、冷戦以前より、中央アジアから中東を繋ぐ大国間の係争地として、様々な定義がなされて来た地域である(Siddiqi 1964; Ramazani 1966)。

そこで本研究では、「北層」諸国概念を巡るより長い歴史的背景を念頭に、RCD と ECO の結成とその活動を、この地域に関与する大国 (英米)と、地域諸国の政策の相互作用の文脈の中で捉えなおす。そして「北層」諸国の概念における、対ソ封じ込め戦略である「北層」防衛構想から、デタント期の地域主義による域内協力体制を経て、ポスト冷戦期に向けた、メガ・リージョナルな政策概念への変容を明らかにしていく。それらを通じ、当初はアフガニスタン等を含む、より広い国家群を意味した「北層」諸国が、トルコ、イラン、パキスタンの 3 カ国へと具体化され、更に中東から中央アジアへと拡大する、独自の地域概念へと発展して行く過程について考察していくものである(Hashmi 1979;Koolae & Davarpanah 2010)。